



畑野センター長(右)の指導のもと細江さんに声を掛けながら血圧を測る松本さん(左)＝米原市下板並で

滋賀医科大学

地域医療の現場を実感

湖東、湖北の施設で研修

滋賀医科大(大津市)の学生四十四人が二十六日、地域医療に関する研修で、湖東・湖北地域の医療拠点を訪問した。施設を見学したり、先輩医師の話の聞いたりしたほか、往診に同行して、実際の地域医療を体験する学生もいた。

(森若奈)

米原市春照で医療と介護を提供する「地域包括ケアセンターいぶき」では、畑野秀樹センター長(四七)の案内で院内の診察室やリハビリ室などを見て回った。沖縄島の離島で地域医療に携わった、同センター医師臼井恒仁さん(三〇)の体験談にも耳を傾けた。

往診同行を希望した医学科三年の松本有美さんは、畑野センター長と山間部の同市下板

「患者さんから学ぶ」

つなごう  
医療

運動場です。サッカーや鬼ごっこ、いろいろなボール遊びができます。すごく広いからすごく楽しいです。学校が終わっ

アイススポット



たう、すぐにサッカーの練習ができるから大好きな場所です。  
長浜市木之本小五年  
大友 浩二君

並に向かった。娘宅で療養する細江フデさん(九三)と、畑野センター長とのやりとりをそばで見守った後、松本さんも血圧計測を体験。細江さんから「いい先生になってください」と声を掛けられ、笑顔を見せていた。

松本さんは「患者さんから教えてもらうことも多い。畑野先生が手を握って近くで話されていたのが印象的でした」と、地域医療の現場を実感していた。

同大では、学生が卒業後も県内に残り地域医療の担い手となってほしいと、二〇〇七年

から「里親」制度を導入。卒業生や地域で活躍する医師らが学生の修業は里親との交流も兼ねて行われた。